

中部国際空港におけるSAFの取組みについて



中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co.,Ltd.



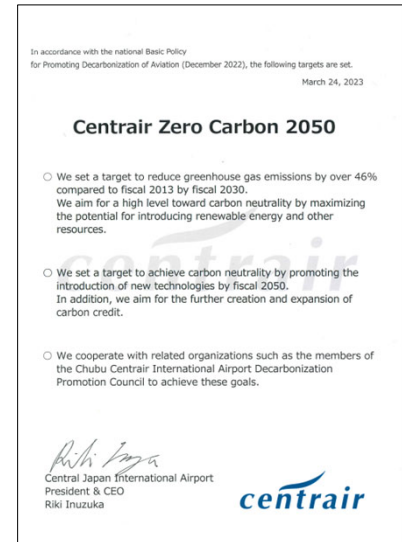
カーボンゼロを目指して「セントレア・ゼロカーボン2050」を宣言！



○「セントレア・ゼロカーボン2050宣言」を2021年5月12日に公表。（2023年3月26日改定）

「セントレア・ゼロカーボン2050」を宣言

- 2030年度までに、温室効果ガス（CO2）排出量を2013年度比で46%以上削減します。再エネ等導入ポテンシャルの最大限活用により、カーボンニュートラルの高みを目指してまいります。
- 2050年度までに、新たな技術の活用により、カーボンニュートラルを実現いたします。さらに、炭素クレジットの創出・利用拡大を目指してまいります。
- 取組みの推進にあたっては、中部国際空港脱炭素化推進協議会の構成員を中心とする関係者と連携・協力してまいります。



○中部国際空港では、「セントレア ゼロカーボン2050」を目指し、航空脱炭素化基本方針に基づき「中部国際空港脱炭素化推進計画」を策定するとともに世界標準であるACI（国際空港評議会）の「空港カーボン認証（Airport Carbon Accreditation）のレベル4」の取得を目指し、手続きを進めている。



中部国際空港におけるSAFの取り扱いについて

- 国土交通省は、飛行検査機に、国内ブレンドの航空燃料（フィンランドから輸入した「ニートSAF」を国内でブレンドしたもの）を導入した実証事業をスタート。
- この事業では、中部国際空港の給油施設で受入れ、ハイドラントを經由して飛行検査機へ給油。（空港のハイドラントを使用した例は、羽田、成田に次いで3例目）
- 弊社では、SAFの利用拡大に向け関係者と連携して、国内外の就航エアラインへも利用の働きかけを進める。

【実証事業の概要】

検証内容：サプライチェーン、保税管理、経済合理性、混合時の品質保証などを検証

使用ニートSAF：ネステ社（フィンランド）のニートSAF 輸入ニートSAFの数量は5 kℓ

使用機材：航空局所有の飛行検査機（CJ4型5機、C700型1機）



【サプライチェーンイメージ図】





セントレアとしての2030年のありたい姿“カーボンニュートラルの実現に向けて！”



- 近い将来の具体的なイメージを思い描きながら力強く取り組むべく「2030年のありたい姿」を設定
- 2023～2025年度は、「2030年のありたい姿」をイメージしながら施策骨子を掲げ、経営目標の達成を目指す。

2030年のありたい姿

⇒環境：「2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、関係者とともに前進する空港」



【施策骨子】 2050年カーボンニュートラルに向けたCO2削減の確実な推進

- ✓ 2030年までに空港の地上施設から排出されるCO2の削減
- ✓ 空港等における再生可能エネルギーの拠点化の着実な推進
- ✓ **SAFの導入及び利用促進の着実な推進**
- ✓ 空港内排出ゴミの資源循環の着実な推進
- ✓ SDGsを念頭においた環境負荷低減に資する調達の推進

JAL、伊藤忠商事とSAFの調達契約を締結し 初めての国内混合SAFを調達
～航空会社として初めて、中部国際空港でSAFを搭載します～

JALグループは、2050年のCO2排出量実質ゼロに向けて、省燃費機材への更新、運航の工夫に加えて、SAF(Sustainable Aviation Fuel:持続可能な代替航空燃料)の活用を掲げておりますが、その一環として、伊藤忠商事株式会社(本社:東京都港区、以下「伊藤忠商事」と)、SAFの調達に関する長期的な基本契約、ならびに航空会社として初めて中部国際空港でSAFを調達する契約を締結しました。

■ 初めての国内混合 SAF を調達
今回調達した SAF は、伊藤忠商事が輸入したコート SAF(混合用の純粋な SAF)(*)を、富士石油株式会社(本社:東京都品川区)が国内で通常のジェット燃料と混合(**)したものです。国土交通省の実証事業(**)を通じて、国内でコート SAF とジェット燃料を混合し航空機に供給するサプライチェーンが構築されたことで、今回の調達が可能となりました。

■ 航空会社初、中部国際空港で SAF を搭載
今回の調達により、2023年4月以降、航空会社として初めて中部国際空港でSAFを搭載します。また、中部国際空港に加えて、羽田空港や成田空港でも順次今回調達したSAFの搭載を予定しています。

今後も、海外ではJALおよびワンワールド アライアンスメンバーと共同でSAFの調達を進めるとともに、国内においてはSAF官民協議会への参画や「ACT FOR SKYの活動」を通じて、業界の垣根を超えたオールジャパン体制で国産SAFの商用化および普及・拡大に取り組んでまいります。

(*)コートSAFとジェット燃料の混合
航空機にSAFを搭載するためには、石油由来ではない原料(動物油脂や廃食用油、産業物など)から製造されたコートSAFと石油由来のジェット燃料を、燃料に関する国際規格に定められた割合で混合する必要があります。なお今回、伊藤忠商事が輸入したコートSAFは、Neste OYJ社(本社:フィンランド)が製造したため、

(**)国土交通省の実証事業
SAFのサプライチェーン構築に向けて、輸入したコートSAFとジェット燃料を国内で混合し、国土交通省航空局が所有する機体に給油したため。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 13 Climate Action

【空港としての取組み】

- ・中部国際空港就航エアラインに対するSAF利用に関する働きかけ
- ・国産SAFの受入れ体制（小ロット受入設備整備）の検討
- ・航空会社のSAF利用環境の整備

【課題】

- 航空会社のSAF需要と供給力のギャップ
- 小ロットSAFの受入れ体制の整備等による事業促進
- 資源循環による国産SAF事業への寄与